

各関係機関長様

高知県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

平成 29 年度病虫害発生予察特殊報第 3 号を送付します。

平成 29 年度病虫害発生予察特殊報第 3 号

1. 病名 トマトホモプシス茎枯病（仮称）

2. 病原菌名 *Phomopsis* sp.

3. 発生作物 トマト

4. 発生経過

平成 29 年 3 月に高知県中西部の施設トマトほ場において、茎が摘葉部位を中心に褐変し、やがて株全体が萎凋、枯死する障害が確認された（写真 1）。高知県農業技術センターで菌の分離、接種および同定を行ったところ、*Phomopsis* 属菌による病害であることが確認された。

なお、*Phomopsis* 属菌による病害は、これまでにナスの褐紋病やキュウリのホモプシス根腐病などが知られているが、トマトでの報告はない。

5. 病徴

摘葉部位を中心に茎が褐変し、やがて株全体が萎凋、枯死する。症状が進展すると、褐変部に小黒点状の分生子殻を形成し（写真 2）、分生子殻中には楕円形の α 孢子及びかぎ針状の β 孢子が確認できる（写真 3）。ただし、 β 孢子は見られない場合もある。本病の詳しい発生生態は不明であるが、接種試験では、茎の付傷部に接種約 7 日後から変色が認められた。また、菌の生育適温は 25～27.5℃であった。

6. 防除対策

（1）発病株は伝染源となるのでは場外に持ち出し適切に処分する。

（2）多湿条件で傷がつくと感染しやすいので、摘葉などの管理作業はできるだけ晴天時に行う。



写真1 茎の褐変
左：摘葉部位からの褐変、右：進展した褐変の様子

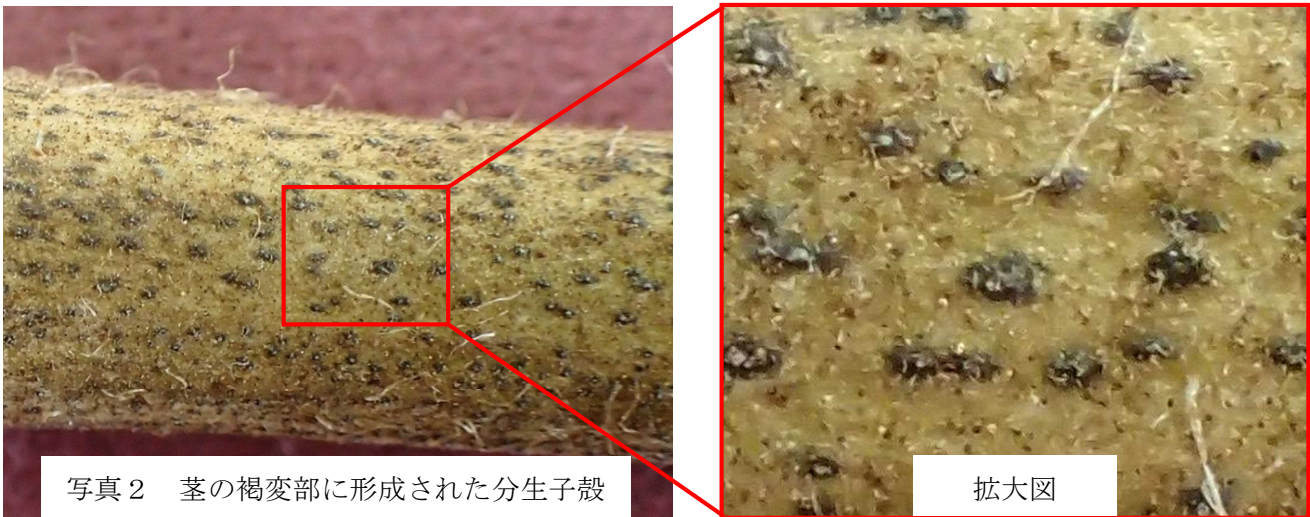


写真2 茎の褐変部に形成された分生子殻

拡大図

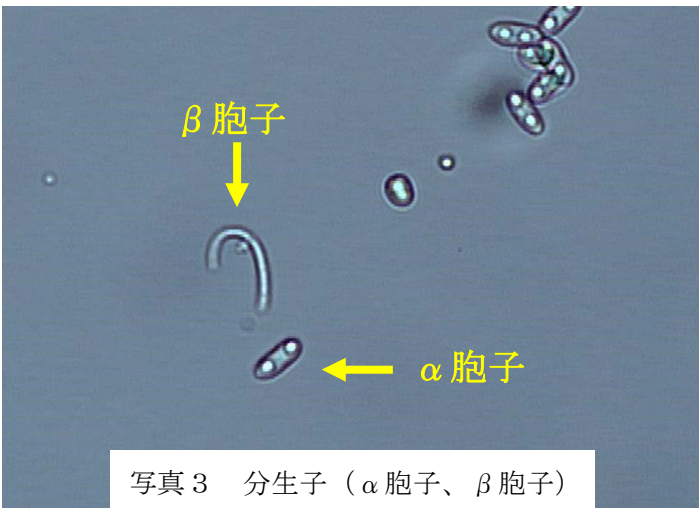


写真3 分生子 (α 胞子、β 胞子)